

川棚温泉エリア 景観デザインガイドライン

概要版

景観デザイン ガイドラインとは

下関市では、豊浦地域〔川棚温泉エリア〕再生計画を作成し、官民連携による各種の取組を進めています。

今後、川棚温泉エリア※のより良いまちづくりを進めるためには、将来に引き継いでいくべき景観資源などの現状や課題を的確に把握し、官民が一体となった共通の将来像をイメージしておくことが大切です。

そのため、川棚温泉エリアにおける景観まちづくりを進める上での手引きや一つの判断材料となるよう、地域にお住まいの皆様のご意見や全国の事例などに基づき、景観資源などの現状や課題、まちづくりの手法等を整理した本ガイドラインを作成しました。

やがて本ガイドラインが、景観まちづくりの在り方を見つめ直す際のツールとして幅広く活用され、川棚温泉エリア、ひいては豊浦地域全体におけるにぎわいの創出やまちの活性化につながっていくことを願っています。

※川棚温泉エリア：川棚温泉街、JR 山陰本線川棚温泉駅、舟郡ダム及びリフレッシュパーク豊浦並びにこれらを相互に接続する県道の沿道に形成された区域

令和6年3月 下関市

1 川棚温泉エリアにおける景観まちづくりの基本的な方向性

本ガイドラインの作成にあたり、まちづくりの基本的な方向性として、以下を掲げました。

景観まちづくりで大切な4つの視点

- ① 風土に寄り添う
- ② 場を生かす
- ③ 物語でつなぐ
- ④ 地域で育てる

川棚温泉エリアでの魅力の掘り起こし

- ① 「豊かな自然」の魅力
- ② 「良質な温泉」の魅力
- ③ 「何気ない生活風景」の魅力
- ④ 「800年という歴史」の魅力
- ⑤ 「プラスアルファ」の魅力



— 景観まちづくりで目指すもの —

「空間」

川棚温泉エリアの各ゾーンの魅力を磨き上げるとともに、ゾーン間を結ぶ動線や連続性・多様性を意識した景観まちづくりを目指しましょう。

「時間」

時間帯や季節感など、時間の流れや移ろいを体感できて、楽しめる景観まちづくりを目指しましょう。

「活動」

身近な取組から徐々に活動を広げ、地域全体のつながりへと発展する景観まちづくりを目指しましょう。



景観特性等を踏まえたゾーン設定

景観まちづくりの基本的な考え方や方向性、景観特性を踏まえた上で、川棚温泉エリアに6種類のゾーンを設定しました。これらのゾーンは、人々が行き交う軸＝「道」に主眼を置いて設定したものです。



2 景観まちづくりのポイント

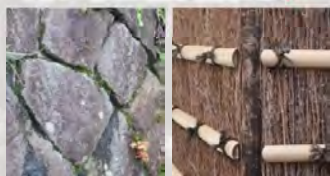
川棚温泉エリアの景観まちづくりを進める上で、実際に取り組むべきことは何でしょうか。

そのヒントとなるような景観まちづくりのポイントをお示しします。これらは、あくまでも一つの手法ですが、地域にお住まいの皆さんとともに景観まちづくりを考える際の一助になればと考えています。一人ひとりが少しずつできることから始め、皆で協力して川棚温泉エリアの魅力を底上げしていきましょう。

■景観を構成する要素

素材

自然を感じさせる素材を用いることが望ましい



色

おとなしめの色（低明度・低彩度）を選択



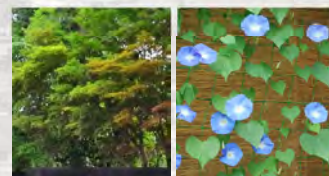
形

隣の建物と、形、高さ、位置に違和感がないか



植栽

意外にも緑が乏しいまちなか。植栽や庭木を大事に

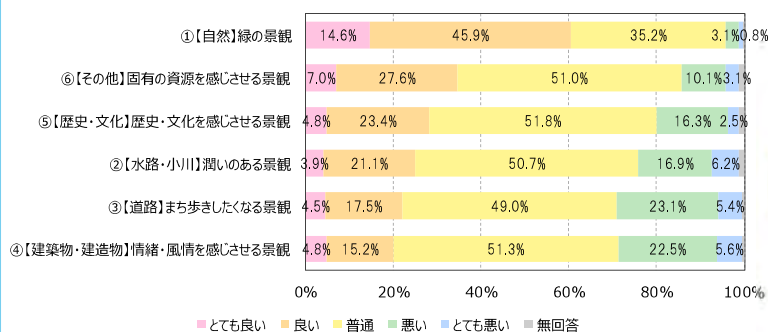


景観についてのアンケート

本ガイドラインの作成にあたり、川棚温泉エリアにお住まいの方々を対象に、現状の景観に対するイメージなどについてお伺いしました。

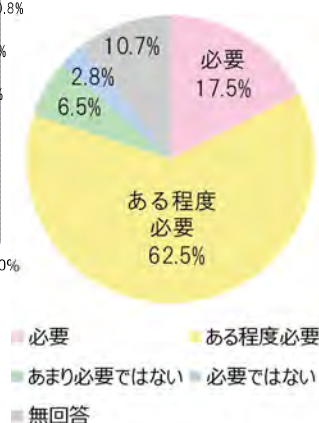
その結果、緑の景観に対する印象は全体的に良い傾向ですが、まち歩きしたくなる景観や情緒・風情を感じさせる景観に対するイメージは比較的に悪い結果となりました。さらに、今後の景観整備に対して、ほとんどの方々がルール必要性を感じておられるとともに、半分以上の方々にルールへの協力意向を示していただいています。

川棚温泉エリア全体の景観イメージ

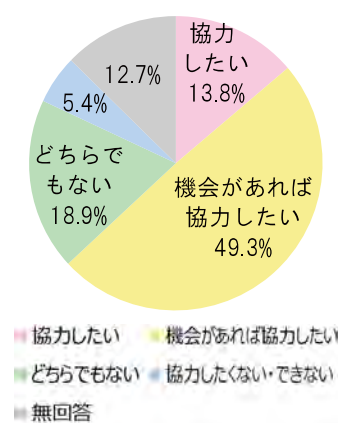


今後の景観ルールに対する意向

①ルールの有無



②ルールへの協力



■取組のターゲットとスタイル



「建物」に関する

まちづくりのポイント

建物を建築するとき、改修するときは、通りからの見え方や街並み全体との関係などに十分注意する必要があります。

- ・建物の大きさや形は「向こう三軒両隣」と揃えましょう
- ・川棚の風景と調和する色・素材を選びましょう
- ・建物の正面（顔）には、趣（表情）を付けましょう

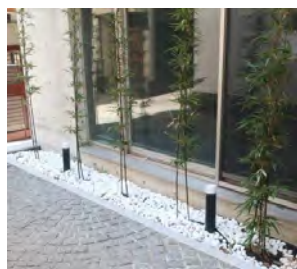


「外構」に関する

まちづくりのポイント

塀や門、庭、植栽などを「外構」といいます。無機質な外構が多いと、温泉街らしい情緒風情を失ってしまいます。風土との調和を意識することが大切です。

- ・塀は、視線等を遮りながらも、人を温かく迎える印象に
- ・建物と道路の隙間は「おもてなし」のスペースです
- ・自然豊かな土地だからこそ、まちなかにも緑は必要です
- ・明らかな人工物はできるだけ隠しましょう





「駐車場・空き地」に関する

まちづくりのポイント

駐車場は必要なものですが、その平坦な空間は、空き地に見えてしまうことがあります。まちの印象を左右しかねません。駐車場と空き地に工夫を施し、まちの景観を変えていきましょう。

- ・駐車場らしくない駐車場にしましょう
- ・駐車場は、使い方次第で広場にもなります
- ・駐車場や空き地を目立たせない工夫をしましょう



「エントランス・メインストリート」に関する

まちづくりのポイント

温泉街を訪れる人の多くが通る、まちのエントランス（入口）・メインストリートは、まちの第一印象を決める特別な場所です。

- ・立ち寄りやすい店先づくりを心がけましょう
- ・せっきくのイベントは、目立つ場所で開催しましょう
- ・特別な場所には、特別な設えを配置しましょう





「眺望スポット」に関する

まちづくりのポイント

様々なニーズに応える多様な眺望スポットをつくることで、川棚温泉エリアのリピーターを増やします。

- ・分かりやすい眺望スポットをつくりましょう
- ・眺望スポットまで安心してたどり着けるルートをつくりましょう



「小径・水辺」に関する

まちづくりのポイント

小径はそぞろ歩きにはもってこいの空間で、水辺では癒やしの時間を過ごせます。すみずみまで川棚温泉エリアを楽しんでもらう工夫をしていきましょう。

- ・訪れる方に安心してまちなかを探検してもらいましょう
- ・小径や水辺を際立たせるラインを描きましょう
- ・水を感じる仕掛けを設けましょう





「日常の取組」に関する

まちづくりのポイント

幟（のぼり）を立てる、掃除する、そういった日々の取組を積み重ねていくことで、やがて、川棚温泉エリアにしかない魅力ある景観が生まれます。

- ・比較的手軽な小物を使ってまちを飾りましょう
- ・毎日のお手入れや掃除も、立派な「まちづくり」です
- ・植木鉢（プランター）の素材や色を揃えましょう



「イベント」に関する

まちづくりのポイント

イベントは、多くの人を惹きつけ、人と人を結びつけ、お店やまちのファンを増やす貴重な機会です。これらを効果的な景観まちづくりにつなげていきましょう。

- ・イベントの趣旨やテイストを「まちのかたち」に取り込みましょう
- ・季節感のある風習が独特な風景を生み出します

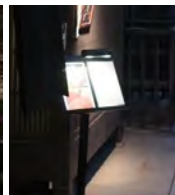
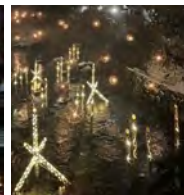


「ライトアップ」に関する

まちづくりのポイント

温泉街では、夜の景観が非常に重要です。暖色系の柔らかな明かりや建物の中から漏れる光は、人の営みや生活感を演出し、来訪者に暖かみや安心感を伝えます。

- ・観光資源を目立たせるためにライトアップをしましょう
- ・街並みを間接照明で照らしましょう
- ・簡易な明かりを灯しましょう
- ・建物の中から漏れる明かりが夜の景色を彩ります
- ・照明の日中の見え方にも気を付けましょう



3 将来予想図

景観まちづくりの取組を官民で実践することで、川棚温泉エリアの魅力を引き出すことができます。ここでは、取組を実践した場合の一例を将来予想図としてご紹介します。



連絡先: 下関市役所豊浦総合支所
地域政策課

下関市豊浦町大字川棚 6895-1

Tel : 083-772-4001